

富秋中学校区等まちづくり検討会議（平成 30 年度第 3 回） 議事概要

1. 日 時：平成 30 年 4 月 9 日（月） 19：00～20：00

2. 場所：和泉市 人権文化センター 1F 大会議室

3. 出席者：委員 22 名

和泉市職員 16 名

コンサルタント 3 名

4. 議事概要

■委員・役員の交替について

○ 新委員より挨拶。

○ 田中副会長（池上校区会長）の交替に伴い、会長の指名により副会長 1 名を選任

向井会長が、南三郎氏（4 月より池上校区会長）を指名した。

- ・ 異議がなかったことから、副会長は南氏となった。

■全体について

※以下、特記無き場合委員の発言

- ・ 専門部会の議題に入る前に質問がある。人口を増やしたいのか、（施設の集約化によって出来る）空いた土地を利用したいのか、市としての最終的な構想はあるのか。それによって、議論の中で出てくる意見が変わると思うが、市としての指針を出してほしいと思う。

⇒（和泉市）

市としては、現状として市営住宅の老朽化、少子高齢化による学校の生徒数の減少という 2 つの課題に対して、皆様のご意見を取り入れながらまちづくりに取り組んでいくことにより、単なる施設の建替えだけでなく、将来に渡って住み続けたいまちづくりということで過去に住まわれていた人が戻ってきたり、新たな人が住みたいと思えるまちづくりを進めたいと考えている。

- ・ まず、人口を増やさなければ地域は活性化していかないと思う。人口を増やすこと、子どもを増やすことが第一の目標になるのではないかと思う。また、空いた土地を民間に売却するという意見は短絡的であり、市独自の考え方で空いた土地の有効利用について考えてもらいたい。

⇒（和泉市）

市としては学校教育の充実や学校給食など少子化対策を全般的に行っているが、人口の社会増減を考えるといかに転出を食い止めて、転入を増やしていくかということになるが、空いた土地に民間のマンション等と呼び込むことや、皆様が使いやすい施設を考えていくこと等が一つの手法であると考えているので、この場で議論出来ればと思う。

⇒（事務局）

今あった話のように、空いた土地をどういう人に提供するか、どんな層が新たに入ってほしいのか、どのような施設がほしいか、子育てしやすい環境をどのようにつくるかなど、具体的な話は専門部

会での議論になるかと思うので、続いて専門部会の説明に移りたいと思う。

■専門部会について 資料2-1【進め方について(案)】資料2-2【設置する専門部会について】

- ・ 専門部会①の検討テーマ例に、『学校の適正配置』、『子育てしやすい環境づくり』などのテーマの記載があるが、今年度の幸小学校1年生の児童数が18人であることを考えても、まず学校の生徒を増やすことから検討しないと、机上の空論になってしまうと思う。

⇒(事務局)

ご指摘の通り、子どもがいない中で議論してもどうかとは思うが、子どもの増加のためにも、子育てしやすいまちとはどんなまちか、環境面の議論も同時にしていく必要があると思う。例えば、既存の施設(学校や青少年センターなど)が機能としてこのままでよいのか、ということから議論を始めても良いと思う。青少年センター等の公共施設であれば、子どもたちが施設を利用しているのか、小学校については、小中一貫校という事例が和泉市の他の地域でもある中で、富秋中学校は施設一体型とするのか、分離型とするのか、どんな学校が魅力があるのか、などの議論からまずは意見を出すことが出来ればと思う。また、机上の意見とならないように、出た意見については、市に頑張っってしっかり反映していただいたい。

- ・ 池上小学校の新入生は41名で、昨年より多い。
- ・ 幸小学校の新入生は18名で、昨年より少なく、現在6学年合わせて105名。
- ・ 富秋中学校の新入生は、70名である。

⇒(事務局)

小中一貫校とするにしても、地域に子どもが少ない中で、学校を一つに集めても現状1クラスが2クラスになる程度であり変わりがないので、地域に子どもがもっと増えるような環境づくりをしないといけないと思う。

- ・ 耐震性のない住棟に住まわれている方の引っ越しについて、費用や体力的にも大変に感じる高齢者が多いと思うので、対応を検討すべきではないか。
- ・ 若い人に来てもらうためには、市のバックアップが必要だと思う。例えば、高石市や大阪市などで新婚世帯への補助金が出ているようだが、そういった制度があれば若い人が増えると思う。
- ・ 保育園の問題もある。池上わかばこども園でも、遅くまで子どもを預けている家庭が多いようだが、そういった子育て支援施設をより増やすことが出来れば、若い人も増えると思う。
- ・ 富秋中学校区は、他の校区の状況と比べて、特殊な家庭環境(母子家庭、父子家庭など)が多いように思われる。そのような家庭でも、周りに相談しやすい、情報交換しやすい環境があれば、子育てしやすいまちになると思う。

⇒(事務局)

制度上の対策として、家賃補助や保育園の延長保育、病児保育など、また特殊な家庭への手厚いサービスがある環境などが整えられれば、子育てしやすいまちになっていくと思う。そのために施設が必要かどうか、という議論については専門部会で色々意見を出していただき、議論を通じて形にしていくというのが今回のまちづくり検討の趣旨だと思う。

- 各部会のテーマは全部つながっていると思うので、まず一番最初に、全体のまちづくりから考え直さないといけない問題だと思う。

⇒（事務局）

おっしゃる通り、全てのテーマが関連している。部会テーマのまとめ方については役員とも相談をしたが、例えば『子どもを増やすべき』というテーマは、部会①『子育て・教育部会』だけでなく、部会②『福祉部会』や部会③『住環境・コミュニティ部会』など、どの部会で話をしていても良いと思う。根本のまちづくりをどうするかということについては、専門部会で個別の話をする中で、このまち全体のコンセプトや方針が出てくると思うので、それらを検討会議の場でまとめていってはどうかと考えている。次回ワークショップの中で各意見を膨らませた上で、専門部会で議論し、出た意見を検討会議の場に集める、という繰り返しをこれから1年間かけてやっていくことになると思う。
- 欲しい施設の話がこれまでも出たが、様々な民間企業へ意見を聞くタイミングはあるのか。まちづくりの構想が出来たあと、参画してくれる事業者があるかについては考えなくてよいのか。

⇒（事務局）

民間企業へのヒアリングは、コンサルタントの業務に含まれているので、例えばスーパーが欲しいという意見があれば、スーパー業界へのヒアリングは、コンサルタントが行う。
- 各専門部会に民間企業の営業担当などがいて、我々が思いつかない提案をしてくれるなどができるのか。

⇒（事務局）

事務局の中で一度検討したいと思う。
- 子どもが増えないという問題は住宅の問題に直結してくると思うので、市として団地の集約化等が決まっているならば、跡地の面積なども合わせて示してもらえれば、どのような施設を整備するかなど、具体的な提案をしやすくなると思う。具体的な方向性が決まってない中で言いにくいことではあると思うが、うまく市とキャッチボールしながら、民間とも連携してまちづくりについて話し合っていきたい。

⇒（事務局）

各部会には市も参加し、情報提供や意見交換などをしながら、委員が中心となって決めていくスタンスであると思う。
- 部会の作り方はどうなるのか。委員だけではメンバーが足りないように思う。

⇒（事務局）

基本的に、各委員がそれぞれ部会に所属してもらい、一般からも広く募集をかける。
- 部会は全く別々の日に行うのか。複数の部会に参加できるのか。

⇒（事務局）

基本的には、別々の日に行うことになっているので、複数部会に参加いただける。異論がないようなので、この4部会（①子育て・教育部会②福祉部会③住環境・コミュニティ部会・④地域活性化部会）で進めることとするが、例えば④地域活性化部会などは、盆踊りやだんじり祭り、地場産業など様々なことに関わると思うので、色々なテーマを取り入れながら今後進めていた

だければと思う。

■各委員の専門部会所属について

- 各委員の専門部会所属については欠席委員の希望も確認し、次回の検討会議で決定することとした。また今後入りたい部会があれば、適宜参加可能とする。また、部会長について、子育て・教育部会は伊藤卓志委員、福祉部会は一井正次委員、住環境・コミュニティ部会は平松麻美委員、地域活性化部会は瀧剛志委員に決定した。
- 委員以外の方の専門部会参加については、ニュースやHP等で募集をかけるが、各委員からの口頭による参加呼びかけをお願いする。

■第2回住民ワークショップについて

- 資料説明 資料3【第2回住民ワークショップ チラシ】
- 中学校生徒会からの参加が今後あるかもしれないので、対応していただきたい。
⇒（事務局）
承知した。中学生であれば、大人とみなして参加いただきたいと思う。

■今後について

- 第4回検討会議は、4月23日（月）19：00～20：00 場所：人権文化センター 大会議室に決定。4月15日の第2回住民ワークショップの報告、専門部会の進め方の検討などを行う。